

「トルコギキョウ斑点病」について

令和2年8月、県北部のトルコギキョウ栽培施設において、灰色～黒色のすす状円形病斑が下位葉の表裏に多数確認されました（図1）。

県野菜花き試験場で病原菌の分離、病原性確認および分離菌の遺伝子解析を行ったところ、トルコギキョウ斑点病であることが確認されました。

本病は平成20年に福岡県で初確認され、令和3年5月20日現在、21県で確認されています。

被害の様子

- (1) 発生初期では、下位葉に5～10mmほどの退緑斑紋がうっすらと確認される程度ですが、後に葉の表裏に灰色～黒色のすす状の病斑（図1）を形成します。病斑上には、小黑点（分生子座）が多数形成され、顕微鏡で観察すると分生子（図2）の形成が確認できます。病斑は下位葉を中心に発生しますが、まん延すると上位葉へと進展します。



図1 葉に形成されたすす状病斑と現地施設における被害状況

(野菜花き試験場 提供)

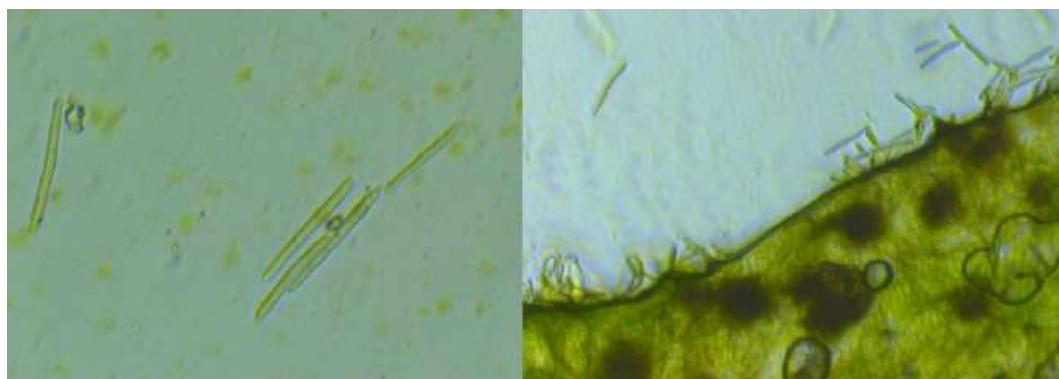


図2 分離菌の形態（病斑上の分生子）

(野菜花き試験場 提供)

伝染経路と発生生態

- (1) 本病は、盛夏を除き、ほぼ年間を通して発生します。特に春から秋の多湿条件下で多発します。生態や伝染環についての詳細は不明ですが、育苗中及び本場で発生し、病斑上に形成される分生子により伝染します。
- (2) 現在確認されている宿主植物は、トルコギキョウのみです。

防除の方法

- (1) 多湿条件下で発生が助長されるため、施設内の換気を十分に行い、除湿を図ってください。
- (2) 発病葉は見つけ次第速やかに除去し、登録薬剤により防除を行ってください。
- (3) 罹病株の残渣は伝染源となるので、ほ場外で焼却又は埋却処分してください。

疑わしい症状を見つけたら、最寄りの農業農村支援センター又は病害虫防除所までご連絡ください。

長野県病害虫防除所 (東北信)Tel026-248-6471 (中南信)Tel0263-53-5642

発行 長野県病害虫防除所 令和3年11月作成